

(様式1)

平成20年度 荒川区立第三中学校 「学力向上マニフェスト」成果と課題

本年度の指導の重点	努力目標・成果目標	予算執行	成果と課題、改善策
<p>小中一貫教育の推進</p> <p>小中一貫教育研究推進校として、小中の一貫した指導計画、指導方法等を研究することで、教員の資質向上を図り、授業改善を目指します。</p>	<p>〔努力目標〕 月1回以上のワーキングチーム会議、研究授業を実施し、講師による指導を受けながら実践を積み上げる。</p> <p>〔成果目標〕 小学校と一貫性のある有効な指導方法を開発します。開発された指導方法や工夫改善点については、2月の研究発表会やホームページ上で公表します。</p>	<p>報償費（講師代） 予算：52,000 決算：52,000</p> <p>消耗品 (研究冊子紙代、印刷トナー代他) 予算：82,000 決算：81,994</p>	<p>・小中一貫教育のワーキングを予定回数以上実施、毎月の研究授業を実施し、2月9日に研究の中間発表を実施した。研究の成果については、指導案集、資料等をCD形式で提供した。</p> <p>→今後、3年次の本発表を11月20日に予定している。小中一貫教育の研究をさらに深め、9年間を見通した指導計画を研究し、その成果を発信していくことが課題である。</p>
<p>キャリア教育の推進</p> <p>キャリア教育の充実により学ぶ意識の向上を図ります。</p>	<p>〔努力目標〕 キャリア教育の特色として、「5日間の勤労留学」、「校内ハローワーク」「おもしろ探究授業」等、外部人材を活用し実施する。</p> <p>〔成果目標〕 学力向上調査の意欲に関する調査結果で、全ての項目で区の平均を上回り<u>2ポイント上昇</u>を目指します。数値を公表します。</p>	<p>予算： 「未来を拓く子どもの育成」予算で執行</p> <p>決算：</p>	<p>・7月には「5日間の勤労留学」、11月には30業種で「校内ハローワーク」を実施、1、2月には「おもしろ探究授業」を16講座で実施することができた。</p> <p>・特に「おもしろ探究授業」では教科の幅を広げ、教科学習への興味関心を高める取り組みを実施できた。</p> <p>・キャリア教育による学習意欲向上への直接的な関わりは明確ではないが、区意識調査では、全ての項目で区平均を上回り、区より平均1.7ポイント上回った。</p> <p>→今後、学校生活の全てをキャリア教育の視点で見直し、本校独自の行事を充実させる。教科の幅をさらに広げ、興味関心、学ぶ意欲の向上させ、意識調査で数値的な上昇を目指す。</p>

<p>〔基礎学力の定着〕</p> <p>基礎学力の定着を図る。到達度の下位層のレベルアップを図ります。</p>	<p>〔努力目標〕 外部人材を活用したティーチングアシスタントによる授業の支援を実施します。</p> <p>〔成果目標〕 19年度学力向上調査の数値を全ての教科で<u>2ポイント上回る</u>ことを目指します。学力向上調査の結果比較により、細部にわたる到達度の変化を公表します。</p>	<p>報償費 予算： 決算： (区のティーチングアシスタント予算で対応・外部人材予算で支出)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じてティーチングアシスタントの授業支援を6名アシスタントティーチャーの採用により実施した。きめ細かな指導、対応により理解度を高める取り組みが行われた。 ・学力向上調査の教科総合の結果をみると全ての教科で区の平均を上回り、各教科で達成率は平均で4.8ポイント上回った。(詳細は本校ホームページ参照) <p>→今後もアシスタントティーチャーを積極的に導入し、学力向上の定着を図る。</p>
<p>補習による学力向上</p> <p>放課後、長期休業中に補習を徹底し、各レベルに応じた指導を展開します。</p>	<p>〔努力目標〕 外部人材を活用と教職員の協力で補習教室を強化します。きめ細かい指導により各到達度に応じた学力の向上を図る。</p> <p>〔成果目標〕 成績の二極分化の解消を目標とする。荒川区学力向上調査の結果で分布状況を公表していきます。</p>	<p>消耗品費 (てらこや用 教材費) 予算：147,000 決算：147,000</p> <p>報償費 (てらこや英語、数学外部講師) 予算：38,4000 決算：38,4000</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①週2回「夜間三中てらこや」を英語と数学の2教科で19:00～21:00に実施した。 ②2学期のみの累積で3,766名の生徒が、年間で約累積4,000名の生徒が参加した。 ③補修用教材を計画通り購入し、到達度に応じて指導を進めた。2極分化という点では、てらこや教科の英語、数学については下位の生徒が減少し、正規分布の結果が得られた。 <p>→ 全体的なレベルアップも含め、今後も「夜間三中てらこや」を週2回のペースで継続実施する。</p>
<p>各種検定による学力向上</p> <p>検定教材を充実させ、補習活動に活用する中で、検定試験に挑戦させ、学力向上を図ります。</p>	<p>〔努力目標〕 各種検定に挑戦させ、準備の過程で、補習活動に取り組みせ、検定合格とともに学力向上を図ります。</p>	<p>消耗品費 (英検・漢検教材費等) 予算：119,930 決算：119,877</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①英語検定に向けて事前の補習授業等を実施するとともに各種検定の受検者数の増加、合格者数の増加に結びつけた。 ②汐入小学校の希望児童にも英語検定の機会を設け、合同受検を実現した。

	<p>〔成果目標〕 各種検定（英検、漢検、数検、文書検定等）のそれぞれで<u>受験者数35人以上</u>を目指します。また、汐入小学校児童の受験参加を実現し、同時に受験することで向上心を共有化させていく。 検定結果を公表し、前年度と比較で<u>130%</u>の合格者を出す。</p>		<p>③英検前年度受験者総数62名から今年度の受験者総数は年間112名（180%）と増加 第1回 36名 第2回 41名 第3回 35名（合格者数） 準2級1名、3級19名、4級27名、5級9名 ④漢字検定は、受験者が1回につき平均41名が受検（合格者数）2級2名、準2級12名、3級29名、4級18名、5級10名 →次年度、各種検定への受験者、合格者数ともに本年度の1.5倍を目指す。</p>
<p>図書館活用による言語力の育成</p> <p>図書館の書籍のさらなる充実を図り、授業での活用を推進します。</p>	<p>〔努力目標〕 図書館の充実を一層図り、図書館利用率、図書貸し出し率を上げ国語力向上を目指す。また、各授業での計画的な活用を実施する。</p> <p>〔成果目標〕 図書館を<u>年間200日以上開館</u>。図書館利用者数、書籍貸し出し数を<u>19年度比の150%</u>、貸し出し冊数月刊<u>70冊</u>を目指す。授業での実施状況を公表する。</p>	<p>消耗品費 （書籍購入）</p> <p>予算：15, 120 決算：15, 120</p>	<p>長期休業中の全ての日に図書館開館を実施した。また平日のほぼ全ての日を図書ボランティアの参加を得て開館した。開館日は200日を遙かに上回った。 入館者は昨年度より930名増の3459名（2学期末現在）であった。また、月間貸し出し数は、月平均98.6冊と当初の目標を大きく上回った。 さらに図書館授業を各教科で年間計画で取り入れ実施した。朝の読み聞かせ等の活動を積極的に取り入れた。</p> <p>→今後の課題として、これまでと同様の年間200日以上の開館と共に授業活用、学習センターとしての役割を高めていく。</p>

<p>特別支援教育の推進</p> <p>個に応じたきめ細かい指導を行います。</p>	<p>〔努力目標〕 特別支援教育コーディネーターを中心に組織的に特別支援の生徒への支援を強化する。</p> <p>〔成果目標〕 「個別の指導計画」を作成し、個に応じた教育を進める。生徒のニーズに合わせた指導や支援をするために特別支援コーディネーターを中心とする校内委員会を学期に1回以上設定し、検討する機会を設ける。</p>	<p>予算：特になし 決算：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に外部専門機関への対応、組織的な対応を行うことができた。 ・「個別の指導計画」を作成し、特別支援コーディネーターを中心とする校内委員会を学期に2回以上設定し、実施できた。 <p>→特別支援教育は大きな課題であり、様々なケースに対応できるように特別支援教育コーディネーターを中心に今後も組織で対応していく。</p>
<p>教員の授業力向上</p> <p>チャレンジする教師を育成します。</p>	<p>〔努力目標〕 小中一貫教育研究推進校の研究で研究授業を実施し、外部講師による指導・助言により授業力の向上を図る。</p> <p>〔成果目標〕 月に1回のペースで研究授業を進め、各自の課題解決につなげ区主催の研修会、外部の研究発表会等に全教員1回以上参加させる。</p>	<p>予算： 小中一貫教育推進予算で執行済み</p> <p>決算：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回以上の研究授業、ワーキングチーム会議でのリーダー養成、研究協議等を計画的に実践した。その都度専任の指導講師より指導を受ける。 ・2月9日には、中間発表会を行い、発表に向けた取り組みを通じ、授業力向上を図った。 <p>区主催の研修会、外部の研究発表会等に全教員1回以上参加させた。</p> <p>→荒川区教育委員会小中一貫教育研究推進校として、研究推進を通じて教員の授業力向上を図る。11月20日の本発表に向けた過程で教職員の資質向上を図る。</p> <p>各教科で9年間を見通した指導計画の完成度を上げ、広く公表する。</p>